

## 学会記事

### 第13回徳島医学会賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなりました。年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名に贈られます。

第13回徳島医学会賞は次の3名（今回は大学から2名）の方々の受賞が決定いたしました。受賞者の方々には第230回徳島医学会学術集会（冬期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金10万円及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は本号に掲載しています。

（大学関係者）



氏 名：佐藤陽一  
生年月日：昭和43年12月6日  
出身大学：徳島大学薬学部薬学科  
所 属：徳島大学大学院ヘルス  
バイオサイエンス研究  
部プロテオミクス医科  
学部門生体制御医学講  
座分子予防医学分野

研究内容：性分化と精子形成機構に対するプロテオミクスからのアプローチ

受賞にあたり：

この度、第13回徳島医学会賞に選考していただきまして、誠に光栄に存じます。関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

現在私はヒトにおける性分化のメカニズムに関する研究を行っています。多くの生物には雄と雌という2つの性が存在し、雄と雌の生殖により、子孫を残していきます。しかし、雄と雌の決定は生物種によりさまざまであり、ショウジョバエのようにX染色体と常染色体の比率が性決定を決めるものや、カイコのようにW染色体が性決定の要因であるもの、さらに、爬虫類や両生類のいくつかの種は孵化温度により性が決まります。ヒトを含む哺乳類の場合は、みなさんご存じのように、一般には性染色体であるX染色体とY染色体を1本ずつ持つ

と男性、X染色体を2本持つと女性に分化されます。

このように生物種において性分化の決定は多様ですが、哺乳類などの脊椎動物の多くは遺伝的支配を受けています。哺乳類においては1990年にY染色体上に存在するSRY (sex determining region on the Y) という遺伝子が性決定遺伝子として発見されました。SRYの特徴はHMGボックスとよばれるDNA結合ドメインをもつことから、転写因子だと考えられていますが、SRYが発見されてから14年、多くの研究者の努力にもかかわらず、未だにその標的遺伝子が見つかっていません。従って、転写因子以外の機能をもつ可能性もあります。そこで私は、SRYがどのようなメカニズムで性分化を引き起こしているのかを解明するため、プロテオミクスという手法を用いて、SRYの標的遺伝子の発見、ならびに転写因子以外の未知の機能の発見を目指しています。

今回の受賞を励みに、今後も性分化のメカニズム解明につながるような成果が上げられるよう頑張っていきたいと思います。今後とも、よろしく御指導くださいますようお願い申し上げます。



氏 名：梨木邦剛  
生年月日：昭和51年10月5日  
出身大学：徳島大学大学院栄養  
学研究科  
所 属：徳島大学大学院パイ  
オヘルスサイエンス  
研究部医療栄養科学  
講座臨床栄養学分野

研究内容：・腎臓における無機リン酸再吸収機構

・食品中のストレス惹起因子の分子病態学的解析と応用

受賞にあたり：

この度、私共の研究成果を徳島医学会賞に選考して頂き光栄に存じます。

現在私は、細胞膜上に存在するカベオラと呼称される膜ドメインの無機リン酸輸送への関与について研究を行っています。細胞膜にはさまざまな膜ドメインが存在し、特にカベオラと呼称される膜ドメインで多くの栄養輸送やホルモンのシグナル伝達が行われていることが最近明らかとなり、カベオラの異常が、糖尿病、アルツハイマーなどの疾病を発症させる可能性が示唆されています。この度の研究で、無機リン酸の輸送制御においてもカベオラが深く関与している可能性が明らかとなり、生

体リン濃度の異常に起因するくる病，骨軟化症または動脈硬化症といった疾病の新たな原因がカベオラの異常ではないかと考えております。今後さらなる無機リン酸輸送機構について研究を行うと共にストレス制御に関わる分子もカベオラに局在することから，ストレス負荷時におけるカベオラの解析についても行っていきたいと考えております。

最後になりましたが，武田英二教授，直接指導を頂いた竹谷豊助教授ならび諸先生方，そして後輩の武市朋子さんに心から感謝致します。



氏 名：西内<sup>にしうち</sup> 健<sup>たけし</sup>  
 生 年 月 日：昭和28年7月12日  
 出 身 大 学：徳島大学医学部医学科  
 所 属：川島循環器クリニック（研究グループ：徳島循環器・糖尿病ジョイントミーティング）

研 究 内 容：徳島高血圧・糖尿病 study - 高血圧・糖尿病合併症例に関する臨床的検討 -

受賞にあたり：

この度は，私たちの研究を第13回徳島医学会賞に選考していただきまして光栄に存じます。関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

私は主に循環器疾患の診療をしています。日常診療でも循環器疾患と糖尿病が合併している症例が非常に多いと感じます。また，このことはそれぞれの予後に大きく影響しています。近年，動脈硬化性疾患が増加していることやメタボリック症候群が注目され，この合併の管理の重要性が増しています。循環器専門医と糖尿病専門医がたがいに意見を交換し，より良い診療を目指すことが必要です。この目的のために，徳島赤十字病院日浅芳一助院長の発案で「徳島循環器・糖尿病ジョイントミーティング」という研究会が発足しました。この研究会で講演，症例検討などを行ってききましたが，一度高血圧と糖尿病診療の実態調査を実施することになりました。

高血圧・糖尿病を合併した症例は循環器専門医が治療している場合もあれば糖尿病専門医によって治療されている場合もあります。それぞれの専門医によって患者背景がどう違い，治療内容やコントロール状況がどうであるのか調査しました。本研究はこの結果をまとめたものです。高血圧・糖尿病という疾患は日常臨床で多く診て

いますが，こうやってまとめてみますと初めて気付くことや，反省すべき点も明らかになりました。日常行っている治療では，各疾患治療ガイドラインに示された基準に達していない例が思ったより多いこともわかりました。この結果を活かして更に良い診療を目指したいと思っております。

本研究は多施設協同研究です。協同研究者の先生方，また多忙な診療のなか症例を登録していただきました先生方に厚くお礼を申し上げます。